

調布市 みらい共創ビジョン

令和8年5月 策定

CHOFU



目次

01	ビジョン策定の背景		03	「共創」における基本的な考え	
	• ビジョン策定の背景・趣旨	P.04		• 「共創のまちづくり」のありたい姿	P.12
	• 本ビジョンの位置付け	P.05		• ありたい姿の実現に向けて	P.14
				• 3つの基本理念	P.15
				• 大切にすべき4つの視点	P.16
				• 【コラム】共創が生み出す「価値」／全体最適	P.17
02	社会の潮流と調布市の現状		04	「共創」の進め方に関する考え	
	• 地域の活力を高めていくために	P.07		• 効果的・効率的に進めていくために	P.19
	• 世の中の動きや変化	P.08		• 「共創」におけるステークホルダーマップ	P.20
	• 調布市の「共創のまちづくり」の歩み	P.09		• 取組の進め方モデルフロー	P.21
	• 調布市の概況と特性	P.10			

資料

• 用語解説	P.23	• ビジョン策定に至るまでの経過	P.27
• これまでの調布スマートシティ協議会での取組	P.26	• 番外編 みんなのみらいのまちビジョン	P.36

01

ビジョン策定の背景



ビジョン策定の背景・趣旨



現在の社会は、人口減少・少子高齢化の進行に加え、社会構造や価値観の急速な変化が重なり合う中で、課題が複雑かつ重層的に顕在化する、かつてない局面に直面しています。これまでの前例が通用せず、明確な正解もない時代において、まちの持続的な発展のためには、行政だけではなく多様なまちづくりのプレイヤーたちが、それぞれの強みを持ち寄り、対話を重ねながら、「皆が納得できる策」を共に見出していくことが求められています。

人々の価値観もまた、「ものの豊かさ」や「経済的な成長」だけでなく、「Well-Being*（身体的・精神的・社会的に満たされた状態）」を大切にする方向へと変わってきています。また、AI*に代表されるデジタル技術の急速な発展に伴って、私たちの暮らしや働き方も大きく変わろうとしています。

こうした社会や価値観の移り変わりを捉え、持続可能で魅力あるまちづくりを進めながら、まちに暮らす人々のWell-Beingを高めていくためには、まちに関わるあらゆる人々が、まちづくりを「ジブンゴト」として捉え、それぞれの目標達成に向けて「共創」していくことが重要です。

調布市が総合計画に掲げる「共創のまちづくり」を効果的に推し進めていくために、関わるプレイヤーが目指す方向を明確にし、共通の認識の下に、対話を重ねながら連携していくための羅針盤として、本ビジョンを策定します。

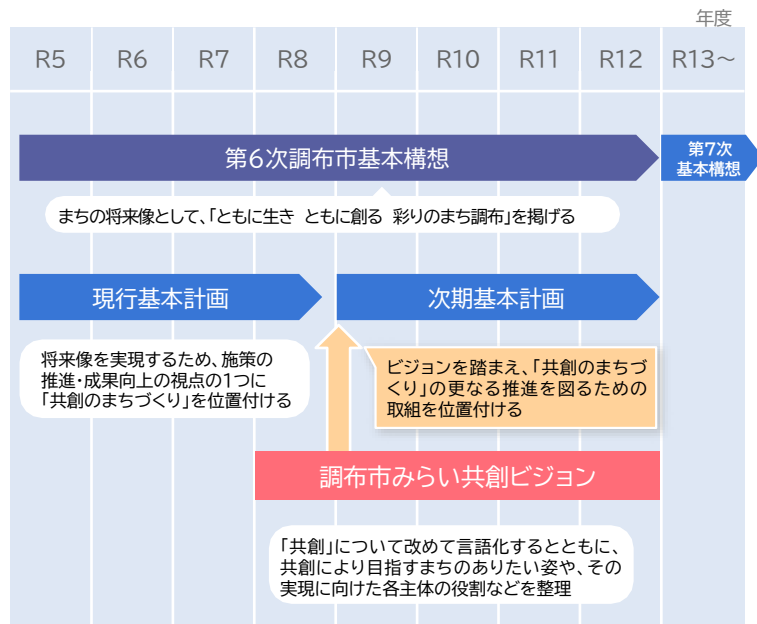
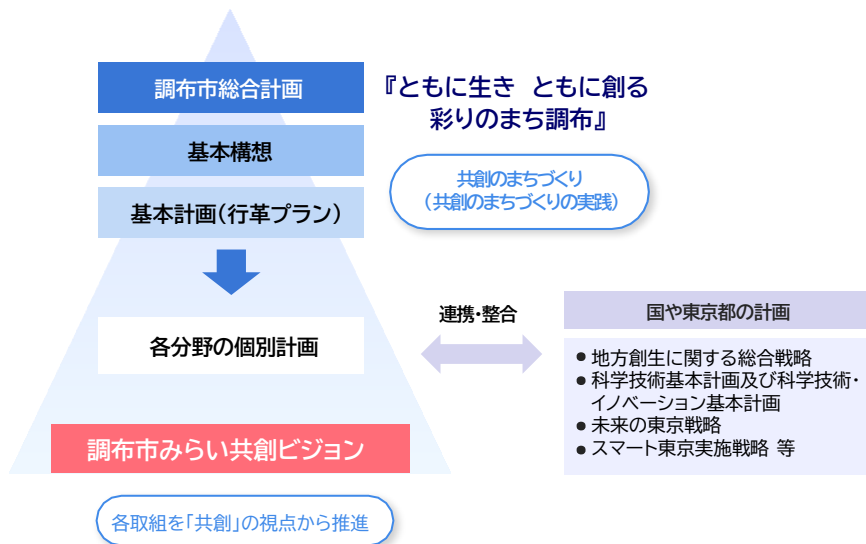
※ 文中の「*」には、用語解説(23～25ページ)があります。

本ビジョンの位置付け

本ビジョンは、国や東京都の方針や、各分野の個別計画と整合を図りつつ、総合計画に掲げる将来像の実現に向けて、調布市が「共創のまちづくり」を効果的に推し進めていくための指針となるものです。計画期間は定めませんが、国や東京都の動向や技術の進展、社会情勢や市民ニーズの変化等に応じて必要な見直しを図り、アップデートしていくものとします。



本ビジョンの位置付け

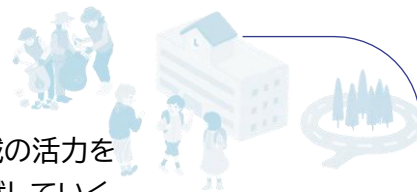


02

社会の潮流と調布市の現状



地域の活力を高めていくために

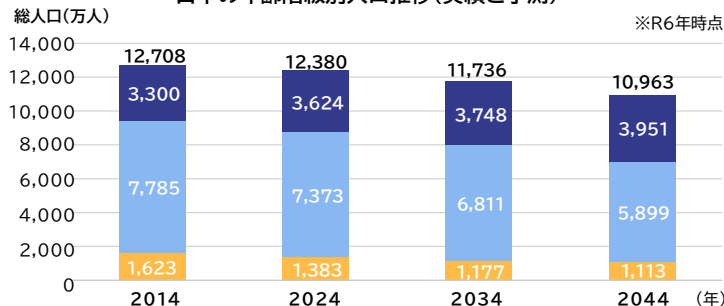


日本の総人口は平成20(2008)年をピークに減り続けています。人口減少と少子高齢化が進んでいく中、地域の活力を高めていくためには、行政だけではなく、さまざまな主体(企業、大学、市民など)が自律的に活動し、地域に貢献していくことが必要です。

日本の人口推移

日本の総人口は平成26(2014)年からの10年間で約340万人減少しており、中でも生産年齢人口(15～64歳)は約410万人減っています。一方で、高齢者人口(65歳以上)は約320万人増え、総人口の29.3%を占める過去最高の割合となりました。そのほか、出生数についても政府の予測を上回る速さで減少しており、今後も人口減少や少子高齢化はますます進んでいくと予測されています。

日本の年齢階級別人口推移(実績と予測)

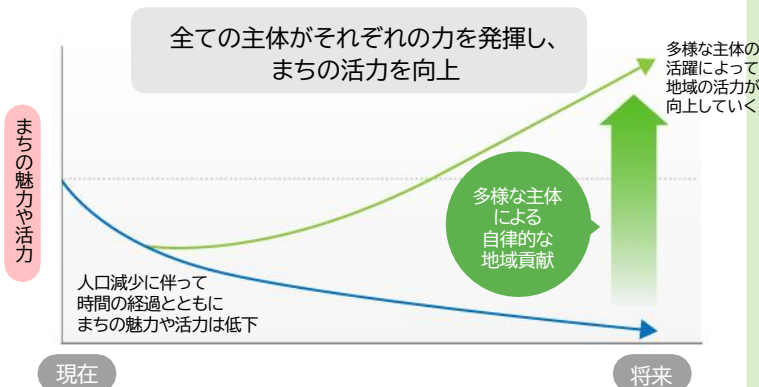


■ 年少人口(15歳未満) ■ 生産年齢人口(15～64歳) ■ 高齢者人口(65歳以上)

出典: 地方創生2.0基本構想
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_chihausousei/pdf/20250613_honbun.pdf

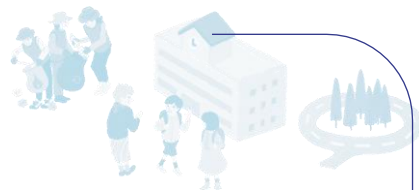
地域のさまざまな主体 (企業、大学、市民など)の役割

人口が減少していく中、地域を創り、支えていく(地方創生)には、行政だけではなく、さまざまな主体(企業、大学、市民など)が、その力を最大限に発揮する必要があります。そのためには、まず、それぞれが時代の変化に適合しながら、その価値を高めていくことが重要です。そのうえで、地域の一員として、地域住民をはじめ、他の主体を巻き込みながら、地域のために進んで行動することが期待されています。



世の中の動きや変化

私たちの暮らしや働き方は、今、大きく変わろうとしています。AIに代表されるデジタル技術が急速に広がり、環境にやさしい社会を目指す動きも進んでいます。便利さだけでなく、Well-Beingの向上の視点も大切です。



持続可能性 (SDGs)



SDGs(エスディーゼーズ)とは、国連が掲げた、持続可能な社会を実現するための目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

出典：外務省 SDGsとは？

調布市の取組

共生社会*の重要性をこれまで以上に発信するため、「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズを掲げ、さまざまな分野で取組を展開しています。

DX (デジタルトランスフォーメーション)



DX(デジタルトランスフォーメーション)とは、AIやIoT*などのデジタル技術を暮らしや仕事に取り入れて、人々の生活をより豊かで便利なものに変えることです。

出典：総務省 自治体DX推進計画

調布市の取組

調布市基本構想に掲げた調布市の将来像を実現するツールとして策定した「調布市デジタル化総合戦略」に基づき取組を進めています。

GX (グリーントランスフォーメーション)



化石燃料中心の経済・社会のルールや構造を、グリーンエネルギー*中心のものに変化させ、エネルギーの安定供給と経済の成長、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減の3つを同時に実現することを目指すことです。

出典：経済産業省 HP

調布市の取組

令和3年4月、2050年までにCO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言*」を行い、取組を推進しています。

ライフスタイルの変化

ここ数年で、私たちの暮らし方や働き方は大きく変わりました。

働き方

リモートワーク*が当たり前になり、時間や場所に縛られない働き方が広がっています。

暮らし

オンライン診療、キャッシュレス決済など、デジタル技術が生活のあらゆる場面に 入り込んでいます。

価値観

「物の豊かさ」だけでなく、「心の豊かさ」を重視する人が増えています。

スマートシティ

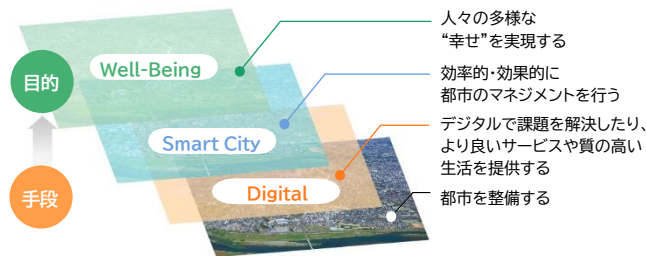


- “スマートシティ”は、行政や企業、大学などが持つデータや、ICT*などの新しい技術を効果的に使って、都市をマネジメント(計画、整備、管理・運営)することで、住民や企業、街を訪れる人が、より良いサービスを受けたり、質の高い生活を送ることができる都市のことです。
- また、国はこうした“スマートシティ”の取組を、未来の社会“Society 5.0*”の実験の場として位置付けています。“Society5.0”が目指すのは、「一人一人が多様な幸せ(Well-Being)を実現できる社会」の実現です。“スマートシティ”はそのために重要な取組といえます。

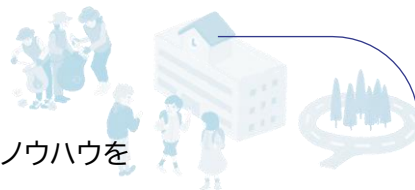
出典：内閣府HP

調布市の取組

令和3年6月、調布市と企業・大学・NPO*法人で「調布スマートシティ協議会」を設立し、現在10団体で活動しています。



調布市の「共創のまちづくり」の歩み



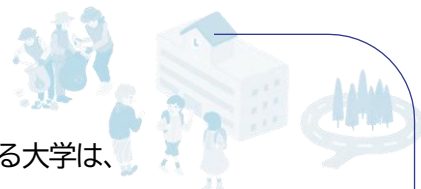
調布市はこれまで、基本構想・基本計画に「共創のまちづくり」を掲げ、さまざまな分野で、企業や大学等の技術やノウハウを活かした先駆的な取組を行ってきました。

企業・大学・行政・市民といったまちづくりに関わる全てのプレイヤーが効果的に連携しながら、より快適で誇れるまちにしていくなために必要なことを、本ビジョンにおいて整理し、共有することで、「共創のまちづくり」をさらに推進・発展させていきます。

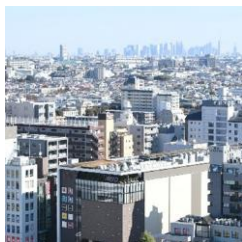


調布市の概況と特性

調布市は、都心へのアクセスに優れ、多彩な地域資源を有しています。また、調布市と協力協定を締結している特色ある大学は、地域との連携を通じて新たな価値を創出しています。



立地と人口



- 調布市は新宿駅まで京王線特急で約18分と都心へのアクセスが良く、深大寺・神代植物公園・味の素スタジアム等の集客力ある観光資源を有しています。
- 調布市の転入・転出人口の割合は5%以上を占めており、比較的、人の入れ替わりが多い都市といえます※。大学生世代(10代後半～20代前半)や子育て世帯(30代～40代)において、特にその傾向が表れています。

(参考情報)調布市人口ビジョン(平成27年10月)

※全国平均は4.23%(令和5年の統計データを基に算出)

特色ある大学等の集積



- 調布市では、文化、教育、学術、スポーツなどの分野で援助、協力し相互発展を図ることを目的として、地域の大学と相互友好協力協定を締結しています。学術的な知見や若い活力を地域に迎え入れ、市民講座等を通じて、まちの課題解決や新しい魅力づくりを共に進めています。

〈相互友好協力協定大学一覧〉※名称は協定書に記載のとおり
電気通信大学、学校法人明治大学、学校法人桐朋学園、
白百合女子大学、国立大学法人東京外国語大学、学校法人慈恵大学、ルーテル学院大学

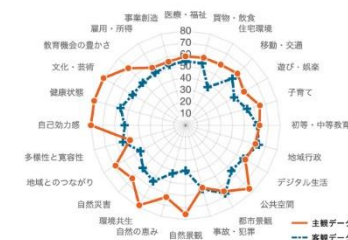
調布スマートシティ協議会



- 市民の利便性向上と社会的課題の解決を目指し、先端技術の活用を推進するため、令和3年6月に多彩な企業や大学、地域情報発信に取り組むNPO法人などと連携し、設立されました。各構成団体が持つ専門的な技術やノウハウを活かし、多岐にわたる実証的な取組を行っています。

〈構成団体〉調布市、国立大学法人電気通信大学、京王電鉄株式会社、NTT東日本株式会社、NPO法人調布市地域情報化コンソーシアム、アフラック生命保険株式会社、日本郵便株式会社、多摩信用金庫、鹿島建設株式会社鹿島技術研究所、株式会社東京スタジアム

Well-Beingの視点から見る調布市



- 調布市は全体的に主観指標が高く(平均偏差値64.9)、「自己効力感」「健康状態」「文化・芸術」は80.0と最大値で、市民の幸福感は高い傾向にあります。
- 客観指標が基準値(50.0)以上でありながら、主観指標が相対的に低い項目もあり、「市の魅力が市民に伝わっていない」可能性も考えられます。

〈出展〉デジタル庁Well-Being指標ダッシュボード(調布市・2025年個別調査)
<https://well-being.digital.go.jp/dashboard>
※調布スマートシティ協議会が調査を実施
(調査期間:令和7年7月～8月 回答数:349件)

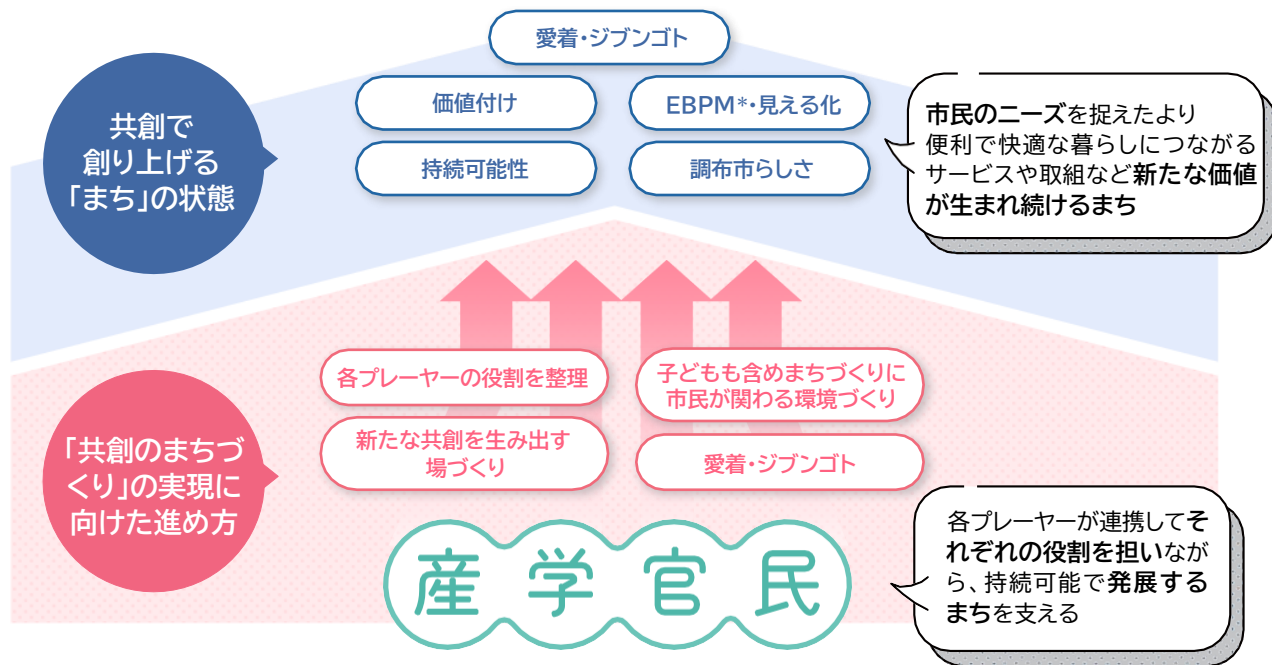
03

「共創」における基本的な考え



「共創のまちづくり」のありたい姿

まちづくりに関わるさまざまなプレイヤーとの対話を踏まえ、「共創」でつくるまちの理想的な姿を整理しました。産学官民の「共創」で創り上げていくまちは、「ありたいまちの状態」と「各プレイヤーがそのまちを支える様子」で表すことができると考えます。なお、調布市は本ビジョンにおいて描く「共創」で創り上げるまちを、人々のWell-Being向上につながる目指すべき“スマートシティ”と捉えています。



「共創」とは…？

立場や目的の異なる多様な主体が、社会的課題の解決と経済的価値の両立を目指す中で、対話を重ねながら、お互いの強みを活かし、これまでにない新たな価値を生み出すこと(イノベーション)を指します。

各主体が、それぞれに達成したい目的を共有し、互いに「win-winな関係」を築いていきます。

「共創」において、産・学・官・民それぞれに期待される役割を表現しています。

「共創のまちづくり」は、技術の進展や社会の変化に伴い、目指すまちの姿や具体的な手法、担い手も変わっていきませんが、それぞれのプレーヤーが持つ強みや社会の中での存在意義を踏まえ、各役割を発揮することを期待しています。

「共創のまちづくり」のありたい姿

産<企業>

「共創」による価値の創出を 強力に推し進めます

独自の技術やアイデアを活かしながら、他のプレーヤーと連携することで、単独では成し得ない価値の創出を目指します。社会の課題解決にスピード感を持って応え、自身と社会全体の持続的な成長につなげます。

学<大学・研究機関>

専門的知見や技術を活かし イノベーションの拠点となります

高度な知識や技術を活かし、まちの課題解決や新たな価値の創出を実現するための拠点となります。社会で活躍する人材を育て、研究成果を地域社会に広げていきます。

民<市民>

「理想の未来」の タネをまきます

「どんなまちにしたいか」を積極的に発信することで、それがまちづくりの道しるべになります。今の、そしてこれからのまちづくりが、自分たちの望むまちにつながっているか、自分たちには何ができるか考え、行動します。

官<行政(調布市)>

「共創のまちづくり」を進めるための 土壌をつくります

幅広い市民がまちづくりに参加しやすい環境を整えます。
多様なプレーヤーがそれぞれの強みを最大限に発揮し、市民にとってより良いまちづくりにつながるよう「縁の下の力持ち」として機能します。



ありたい姿の実現に向けて

「共創のまちづくり」のありたい姿は、行政だけでは実現できません。
まちづくりに関わる全てのプレイヤーが、共創する上での基本理念や視点を共有し、
相互理解を深めながら、その実現に向けて取組を進めていきます。



「共創」における基本的な考え

「共創のまちづくり」をこれまで以上に推し進めていくために必要な「3つの基本理念」を定めました。

また、これらの理念に基づいて取組を進める上で、関わる全てのプレイヤーが共通して持つべき「4つの視点」を整理しました。

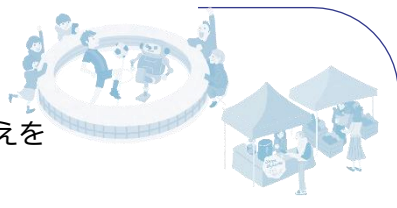
本来、活動目的や組織文化も異なるプレイヤー同士が、それぞれにとってのメリットや新たな価値を創り出していくためには、これらを「合言葉」として共有しながら、相互理解を深め、信頼関係を築いていくことが重要です。

調布市は、こうした相互理解を土台として、各プレイヤーがその強みを最大限に発揮し、市民にとってより良いまちづくりにつながるよう「共創のまちづくり」を進めていきます。

3つの基本理念

「共創のまちづくり」をこれまで以上に推し進めていくために、調布市が「共創」に取り組むに当たって基軸とする考えを「3つの基本理念」としてまとめました。

ともに「共創」に取り組む全てのプレーヤーも、これらの基本理念に基づいて取り組むものとします。



基本理念

1

市民起点

まちづくりの主役は「市民」！

どんなまちにしたいか…まちで暮らす人の視点から生まれる「理想の未来のタネ」を起点に、「共創」の取組は始まります。
取組が市民のWell-Being向上につながっているのか確認するためにも、より多くの市民の巻き込みを継続することが大切です。

Well-Beingの向上

市民ニーズに合致した
サービスの提供

市民起点・産学官民の共創活動

共創の取組

基本理念

2

新たな価値の創造

取り組む目的の明確化！

「共創」を進める上では、新たな価値の創出(イノベーション)の視点が重要です。
AIなどのデジタル技術をはじめとする新たな技術も積極的に取り入れながら、市単独では生み出せない価値の創造に挑みます。

マイナス解消だけでなく、
今あるプラス
(強み・シビックプライド*)を
より高める視点も重要

プラス面(+)をより伸ばす
人々のWell-Beingやまち
の魅力を高める「ゼロからブ
ラス」「プラスを伸ばす」発想

マイナス面(-)を解消する
問題点に着目し、リスクマネ
ジメントを重視する「マイナ
スをゼロに戻す」発想

基本理念

3

分野横断型の発想

既存の政策分野にとらわれない
柔軟な発想！

従来の個別課題に特化した対処ではなく、暮らす人の視点に立ち、分野間の連動を意識しながら「全体最適」を目指します。

分野特化で検討

健康
交通
防災
観光

健康
交通
防災
観光

分野横断で検討

大切にすべき4つの視点

調布市における「共創」による効果を最大限に引き出すため、「3つの理念」に基づく各取組を進めていく際、ともに取り組む全てのプレイヤーは、以下の4つの視点を常に意識しながら、それぞれの視点から取組をより良いものにするを考えます。



「持続可能性・将来性」 の視点

子どもたちの 未来のために

安全・安心に暮らせるまち
であることや、持続可能な
まちづくりをしていくこと
が、次の世代の未来を守る
ことにつながります。

「賑わい・地域資源の活用」 の視点

人が集まる 魅力的なまち

人々や企業、さまざまな
活動を行う団体に、魅力
を感じて集まってきてもらえ
るまちであり続けるために、
まちの魅力を高めるだけで
なく、その魅力を発信して
いくことも重要です。

「あらゆる人にとっての快適さ」 の視点

利便性の高い、 快適な暮らし

新たな技術を活かしなが
ら、より利便性の高いまち
を目指すことと、誰にとっ
ても快適な暮らしを提供す
ることを両立させていく
必要があります。

「多様な主体の巻き込み」 の視点

多様な人材が 活かされる機会

まちの中で、幅広い体験・
経験ができること、人々や
団体それぞれの持つ強み
や良さを活かせる場があ
ることは、みんなで創り上
げていくまちの「チカラ」に
なります。

共創が生み出す「価値」

“ちょっといい”変化の積み重ね

共創は、大きな取組だけを指すものではなく、地域の中で生まれる“小さな変化”を積み重ねていくプロセスでもあります。

企業や学校、市民の皆さんが意見を持ち寄ることで、新たなサービスや活動が生まれ、地域の活力につながる**経済的価値**が育っていきます。また、環境や暮らしの課題といった身近なテーマも、多様な視点が集まることで、現実的な解決策が見えやすくなります。これらの取組は、地域の安心や質の向上につながる**社会的価値**となります。さらに、共に取り組む過程で個々の強みが活かされ、新しいつながりや役割が生まれることで、一人一人の充実感や学びといった**個人的価値**も広がります。

共創の真の価値は、こうした変化が重なり、地域全体に広がっていく点にあります。

共創が生み出す“価値”

経済的価値	社会的価値	個人的価値
地域の活力向上 ● 産業の活性化 ● 雇用創出 ● 事業収益 など	安心や質の向上 ● 持続可能性 ● 社会課題解決 など	強みや役割の掘り出し ● 個人の自己実現 ● 多様性 ● Well-Being など

参考：内閣府「第6次科学技術イノベーション基本計画」
東京都『「未来の東京」戦略』

Q 組織間連携のヒントになる例

- “教育機会の総量を増やす”産学官民連携
経済的事情により十分な学習機会が得られない子どもたちに対し、行政・NPO・企業が連携して学習塾や習い事に使えクーポンを配布する取組。寄付や企業協力による資金と、NPOの運営ノウハウ、自治体の制度を組み合わせで推進されている。
教育機会というパイを“奪い合う”のではなく“大きくする”連携の構図となっており、日本初のコレクティブ・インパクトによる「教育格差」解消プロジェクトとして知られている。

(出典：渋谷区『スタディ・クーポン・イニシアティブ』)

- UDC(アーバンデザインセンター)
2006年11月の柏の葉アーバンデザインセンターの創設時に構想された、課題解決型かつ未来創造型のまちづくりを進めるための公・民・学連携のプラットフォーム。行政都市計画や市民まちづくりという従来の枠組みを超え、地域に関わる多様な主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的な立場から携わる新たな形態のまちづくり組織・拠点として、2026年2月時点で30余りのUDCが全国で設立されています。誰にでも開かれた「場」として人や情報、活動、課題が集まる拠点となり、対話と実践を重ねながら地域固有の課題解決や価値創造に取り組んでいます。

(出典：UDCイニシアチブ

<https://udc-initiative.com/about/>)

全体最適

まちは、一つ一つ切り分けられた箱の集まりではありません。それぞれが複雑に絡み合っており、関係し合っています。

特定分野の課題解決に取り組むことが、他分野の課題解決のヒントになったり、逆に、他分野の新たな課題の引き金となることがあります。

Q 1つの課題解決が、他の課題解決のヒントになる例

- 物流・配送サービス×高齢者見守り
IoT電球で高齢者を見守り、依頼に応じて配達員が代理で訪問
(出典：ヤマト運輸「クロネコ見守りサービス」)
- 産前・産後ケアサービス×コミュニティ
産前・産後の不安に寄りそうサポートサービスを検討するためのプロセス(ワークショップ等)が、ママやパパのコミュニティ形成にもつながる

(出展：柏の葉スマートシティ「みんなのまちづくりスタジオ」)

Q 1つの課題解決が、他の分野の課題になる例

- 防災×環境
防災のための巨大堤防が、生態系の断絶につながってしまう
(出典：公益財団法人 日本自然保護協(NACS-J)『防潮堤と環境アセスメント』)

04

「共創」の進め方に関する考え



効果的・効率的に進めていくために

各プレーヤーがその強みを最大限に発揮し、相互理解を深めながら、市民にとってより良いまちづくりを進めていくために、まずは、調布市が一丸となって取り組む土壌をつくっていく必要があります。



■ しくみづくり

しくみ

- 企業や大学等の技術・アイデアとまちの課題のマッチング、そして、課題そのものの探求に共に取り組むことが可能になる「しくみ」を検討します。
- 「市民起点」で取組を進めていくために、幅広い市民がまちづくりに関心を持って参加し、共創の取組に気軽に加わることのできる「しくみ」づくりに取り組みます。

- 他自治体事例
- **事業提案制度**
『協働・共創の窓口(東京都府中市)』
・民間と市との協働・共創を促進、相乗効果を発揮し、地域課題解決につなげる最初の相談窓口を設置
 - **オンラインプラットフォーム*の活用**
『日野市地域共創プラットフォーム(東京都日野市)』
・市民への情報提供、市民からの意見表明、施策ブラッシュアップを実現するWeb上の市民参加型合意形成プラットフォーム
 - **産学官民の連携プラットフォーム**
『UDCK(アーバンデザインセンター柏の葉)』
・柏の葉のまちの「未来」を議論し、それを形にしていくために、多様な人々が組織や立場を超えて日常的に集う場。公(行政)・民(市民や企業)・学(大学や研究機関)が連携する拠点として2006年に開設された。



20ページ

21ページ

ステークホルダーマップ*の整理

取組の進め方モデルフローの設定

- より幅広いアイデアや新たな技術を積極的に取り入れていくためにも、多様なプレーヤーの巻き込みを図りながら、基本理念や視点などをしっかり共有しながら取組を推進できる体制を検討します。
- 共創の取組は、異なる組織間で、それぞれにとってメリットのある新たな価値を生み出せるよう、対話を重ねながら進めていきます。全体プロセスの中で、市民意見をどのように反映するか、取組をどのように評価するか、プロセスのモデルを示します。

■ さまざまな情報の活用

EBPMの推進

データの利活用

情報の管理

- 客観データを根拠として政策や取組の立案・検討に取り組みます。
- 市が保有する情報のオープンデータ*化を推進します。
- 庁内各部署間において、個人情報を除くまちの情報の共有を推進し、取組の効率化や分野間連携を進めます。
- 多様なデータを組み合わせることで新たな価値を創造する視点から、さまざまなプレーヤーとの連携を図ります。
- 個人情報のほか、共に共創に取り組む企業や大学等の機密情報については、取扱いに関する確認とその管理を徹底します。

■ 共創マインドの醸成

市職員の意識啓発

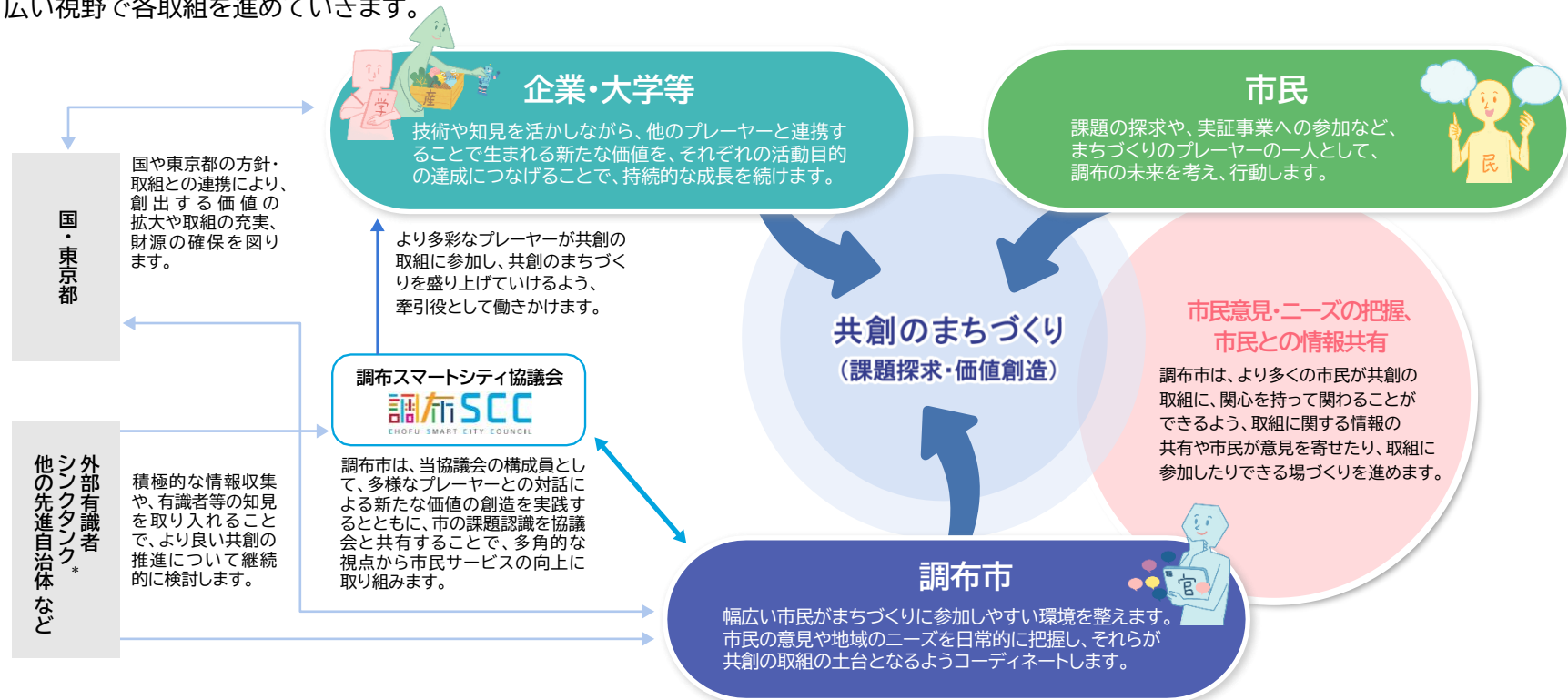
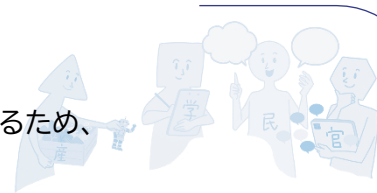
- 既存の政策分野に捉われず、分野を越えた課題の探求やその解決に向けて、異なる組織との対話を重ねながら共創に取り組む意識を高めるとともに、共創の取組に対する達成感や意義を職員全体で共有し、新たな共創に向かうポジティブな連鎖を生み出していきます。

他自治体事例

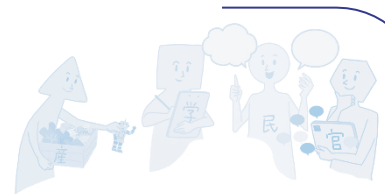
- **企業との共創活動による職員意識改革**
『共創推進の指針(神奈川県横浜市)』
・市民・企業と市が対等な立場で連携し、地域課題を解決する指針を示し、職員の共創マインドを促進、醸成
(例: 民間提案制度、公共課題の見える化等)。

「共創」におけるステークホルダーマップ

まちづくりに関わるさまざまなプレーヤーが、どのように関わり合いながら「共創」に取り組むかを「見える化」するため、ステークホルダーマップとして図式化しました。多様な知見を取り入れ、国や東京都とも連携を図りながら、広い視野で各取組を進めていきます。



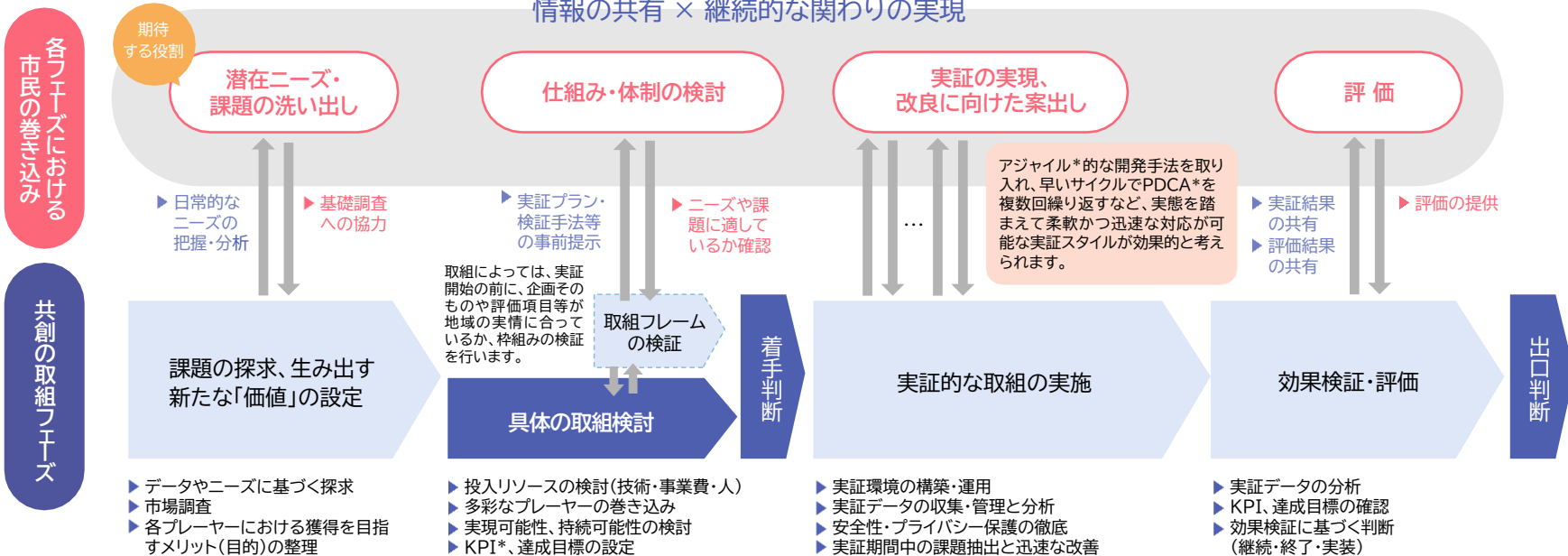
取組の進め方モデルフロー（実証的な取組のモデルフロー）



「共創」の取組は、各プレイヤーが活動目的や組織文化が異なることを理解した上で、お互いを尊重しながら共に進めていく必要があります。実証的な取組を例に、一般的な進め方を以下に示します。

地域のニーズを捉えた、持続可能な社会実装を目指すためには、市民を単なる「サービスの利用者」としてではなく、共に価値を創り出す『共創のプレイヤーの一人』として捉え、各フェーズにおいてその視点を取り入れることが重要です。

情報の共有 × 継続的な関わりの実現



※ 表示 の領域は、当該取組の実施主体となるプレイヤーが、費用対効果などの面から自身の責任の下に可否等の判断を行う領域を示します。

資料

用語解説

用 語	掲 載 頁	意 味
AI	p.4、8、9、29、31	Artificial Intelligence(人工知能)の略称。人間の知的な活動をコンピューターで模倣する技術やシステム全般を指します。学習・推論・判断などを自動で行うことができます。
EBPM	p.12、19	Evidence-Based Policy Making(エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング)の略称。政策の企画立案・実施・評価を、証拠(データや科学的根拠)に基づいて行うことを指します。
ICT	p.8	Information and Communication Technology(情報通信技術)の略称。IT(情報技術)に通信の要素を加えたもので、情報の伝達や処理、共有を効率的に行うための技術全般を指します。
IoT	p.8、17	Internet of Things(モノのインターネット)の略称。様々な「モノ」がインターネットとつながり、お互いに情報をやり取りすることで、便利な機能やサービスを提供することを指します。
KPI	p.21	Key Performance Indicator(重要業績評価指標)の略称。組織や個人の目標達成度合いを評価するための中間指標を指します。目標達成に向けたプロセスが適切に進んでいるかを確認するために使われます。
MVV	p.26	Mission(使命)、Vision(志)、Value(価値観)の略称。経営や組織運営の基本軸となる考え方です。
NPO	p.8、10、26	Non-Profit Organization(非営利組織)の略称。営利を目的とせず、社会貢献活動など様々な公益活動を行う団体です。
PDCA	p.21	Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)を繰り返すことで業務や品質を継続的に改善する管理手法です。
Society 5.0	p.8	日本が提唱する未来社会のコンセプトで、AIやIoTなどの先端技術を使って、様々な情報を共有し、社会の課題を解決することで、人々の生活がより豊かになる「人間中心の社会」を目指すものです。
Well-Being	p.4、8、10、12、15、17、26、35	身体的、精神的、社会的に満たされた、より良い状態であることを意味する言葉です。単に不調がないだけでなく、幸福で良好な状態を指します。
アジャイル	p.21	状況の変化に合わせて、迅速かつ柔軟に試行錯誤(開発・改善)を繰り返しながら進める手法です。
インクルーシブ	p.29	「包摂的な」「全てを受け入れる」という意味で、多様な人々が共生し、排除されことなく共に活動できる社会や環境を目指す考え方です。

用語解説

用 語	掲 載 頁	意 味
オープンデータ	p.19、33	国や地方公共団体などが持っている公共データを、誰でも自由に利用・加工・再配布できる形式で公開することです。透明性の向上や新たなサービスの創出が期待されます。
オンラインプラットフォーム	p.19、27	インターネット上でサービス、情報、コミュニティなどを提供する基盤のことです。
共生社会	p.8、31	年齢、性別、人種、国籍、障害の有無などにかかわらず、全ての人々がお互いを尊重し、支え合いながら共に生きる社会のことです。
グリーンインフラ	p.29、30	自然が持つ多様な機能を、社会課題解決や持続可能なまちづくりに活用する考え方や取組のことです。例えば、雨水を地下に浸透させたり、屋上緑化をしたりすることなどを含みます。これにより、地域の魅力向上にとどまらず、生物多様性の向上や気候変動の適応、防災・減災機能の向上などにつながります。
クリーンエネルギー	p.8	エネルギーの供給・利用に伴う温室効果ガス排出などの環境負荷が小さく、脱炭素化に貢献するエネルギー・電源を総称する概念のことです。
コレクティブ・インパクト	p.17	多様な主体が共通の目的のもとで協働し、共有されたデータや役割分担を通じて成果を高める考え方のことです。日本でも自治体施策への応用が進んでいます。
シェアサイクル	p.30、31、34	自転車を複数の利用者で共同利用するサービスとして提供する自転車貸出システムのことです。
シビックプライド	p.15	市民が都市に対して抱く誇りや愛着、帰属意識を指す概念で、市民主体のまちづくりや地域活性化の原動力とされます。
シンクタンク	p.20	政治、経済、科学技術などの広範な分野にわたる諸問題について調査・研究を行い、政策提言等を行う専門機関です。政府や自治体、企業意思決定を支援する役割を担います。
ステークホルダー/ ステークホルダーマップ	p.19、20	ステークホルダーとは、企業や行政、プロジェクトなどの活動に対して、直接または間接的に影響を与えたり、影響を受けたりする利害関係者の総称です。ステークホルダーマップとは、こうした利害関係者を洗い出し、活動との関係性や役割、影響度などを整理・可視化するための図式的なフレームワークです。

用語解説

用 語	掲載頁	意 味
ゼロカーボンシティ	p.8	温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることを旨とすることを表明した地方公共団体のことです。地球温暖化対策の推進を目的としています。
地域資源	p.14、16、30、32、33、35	特定の地域に存在する、文化、歴史、自然、特産品、人材など、地域の魅力や個性を形成する要素のことです。観光振興や地域活性化に活用されます。
デマンド型交通	p.31	利用者の需要に応じて、運行ルートや時刻を柔軟に設定する公共交通サービスの形態のことです。
都市OS	p.26	スマートシティを実現するための基盤となる情報連携プラットフォームです。都市内の様々なデータ(交通、環境、エネルギー、医療など)を統合・管理し、サービス提供者や住民が利用できるようにする役割を担います。
リビングラボ	p.19、26	実際の生活空間(Living)を実験・実証の場(Lab)として、社会課題の解決や新たな価値を生み出すために、製品やサービスの実証・評価を行う手法です。
リモートワーク	p.8	本拠地のオフィスから離れた場所で、ICTを使って仕事をすることです。自宅で働く「在宅勤務」、本拠地以外の施設で働く「サテライトオフィス勤務」、移動中や出先で働く「モバイル勤務」があります。
ローカル5G	p.32	自治体や企業が、特定のエリアに限定して独自に構築・運用する、高速・低遅延・高セキュリティが特徴の第五世代移動通信システムです。

これまでの調布スマートシティ協議会での取組

主な取組内容		R3年度(6月設立)	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
協議会全体としての取組		● 学生対象ワークショップ実施 ● 注力領域のワーキング設定	● 学生対象ワークショップ実施 ● 注力領域における施策・サービス等の具体化	● スマートシティに関する市民アンケート実施	● 協議会のMVV*及びロードマップの設定 ● 協議会活性化に向けた検討	● 市民ニーズ等現況分析プロジェクトチーム設置(Well-Being指標調査・分析、今後の協議会活動への提言)
都市OS*ワーキング	市としての都市OS導入検討	● 勉強会実施	● 他自治体での活用例を参考にした検討	● GoVTech東京の動向注視	● 国のデータ連携基盤に関する方針を踏まえた都市OSに関する方向整理	
市民・市民周知ワーキング	市民参加の拡大	● 協議会ロゴ・HPの作成	● CDC事業への協力(シニア向けスマホ講習) ● 商工会会員への情報伝達に関する検討	● CDC事業への協力(シニア向けスマホ講習) ● 商工会会員への情報伝達に関する検討	● 商店会を対象としたデジタルを活用した情報伝達の実証 ● お出かけ情報サービスへの協力(地域情報データベースとの情報連携)	● お出かけ情報サービスへの協力(地域情報データベースとの情報連携)
移動ワーキング	お出かけ情報サービス実証事業		● リアルタイム経路検索機能提供に向けた検討	● 市内での回遊を促すデジタルマップ「お出かけ情報サービス」を協議会内でデモ実施	● 市民向けに実証事業を実施	● 実証事業の実施、検証
防災ワーキング	調布あんしんコール実証事業		● 協議会内で一斉自動発信機能のデモ実施	● 事業構築	● 実証事業の実施、検証	
	水災害リスクの見える化		● 災害シミュレーション、氾濫浸水域の3D可視化による防災啓発について検討	● 事業検討	● 調布市防災教育の日に市立小学校にて水害に関する防災ワークショップを開催	● 調布市防災教育の日に市立小学校にて水害に関する防災ワークショップを開催
ヘルスケアワーキング	つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC(調布・デジタル・長寿)運動～	● オンラインとリアル両面から高齢者の健康増進・居場所づくりに取り組む「CDC事業」を開始	● 運動教室・ワークショップ実施 ● デジタルリビングラボ開設	● 取組継続、施策効果の検証	● デジタルリビングラボ運営の地域移行(NPO法人)	
	がん相談支援サービス		● がん患者や家族の不安に寄りそう相談事業の検討	● 「調布市がん相談サポート事業」試行実施	● 本格実施開始	

ビジョン策定に至るまでの経過

オンラインプラットフォーム「ちょうふLiqlid」と対面型のワークショップを組み合わせながら、市民をはじめ、調布スマートシティ協議会構成団体、市職員などさまざまな立場の意見を段階的に収集し、その都度内容を分析し、次の案に反映してきました。こうした対話の取組を重ねて本ビジョンをかたちづくってきました。

ちょうふLiqlid

ちょうふLiqlid

スマホやパソコンを使って、自分の意見やアイデアを書いたり、他の人の意見にコメントしたりできる、対話や話し合いのためのオンラインプラットフォーム



ちょうふLiqlid

<https://chofu-city.liqlid.jp/>

R7年
7月
スタート

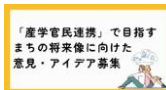
ステップ
1

まずは“少し先”の未来について考えてみよう！

- 調布スマートシティ協議会の構成団体との意見交換
- 調布市各部署からの意見募集

15年後、どんなまちになっていたら魅力的？
その時、どんな風にまちに関わりたい？

大切にすべき
4つの視点を設定



9月
スタート

ステップ
2

産・学・官・民が協力して、より良いまちにしていけるには？

- 9/19（金） 市民ワークショップ①
- 10/6（月） 学生対象ワークショップ
- 調布市各部署との意見交換

① より心地よく、魅力的と感じられる、次の世代につないでいきたいまちにするために、必要なこと、あったらいいなと思うことは？

② それを実現するために、企業・大学・行政・市民 には何ができる？

「共創のまち」のビジョン
中間とりまとめを作成



12月
スタート

ステップ
3

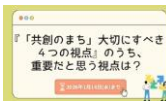
ビジョン「中間とりまとめ」にご意見を募集します！

- 12/6（土）・7（日） まちなかワークショップ
- 12/14（日） 市民ワークショップ②
- 1/7（水） 電気通信大学でのワークショップ

① 大切にすべき4つの視点のうち、重要だと思う視点は？

② ビジョン「中間とりまとめ」に対する気づき・感想

「調布市みらい共創
ビジョン(素案)」を作成



R8年3月

R8年5月

ビジョン「素案」へのパブリックコメント

「調布市みらい共創ビジョン」策定

－対面型の対話の取組－

調布市に長く住む方や、寝に帰るだけ…という方、まちとの関わりもさまざまな方が直接対話することで、新たな発見や、まちの将来を「ジブンゴト」として捉える機会になったとの感想が寄せられました。また、ちょうふLiqlidでの意見募集と連動を図ったことで、オンラインの場で取組に継続的に参加いただくきっかけにもつながりました。

市民ワークショップ①

開催日:9月19日

参加者:10名

対応するLiqlid設問: **ステップ1** **ステップ2**

市民同士が対話し、産学官民連携で目指す調布市の姿を考えるワークショップを開催しました。多様な背景を持つ市民にご参加いただき、調布市のありたい姿を描くと同時に、産学官民それぞれの役割について意見を出し合いました。



学生ワークショップ

開催日:10月6日

参加者:学生6名、調布スマートシティ協議会構成団体6名

対応するLiqlid設問: **ステップ1** **ステップ2**

大学生・高校生と調布スマートシティ協議会構成団体の方々と調布市の目指す姿と実現方法について対話するワークショップを開催しました。学生目線の意見から、企業・大学・行政の役割を検討し、多くのアイデアが発想されました。



まちなかワークショップ

開催日:12月6、7日

参加者:2日間延べ220名

対応するLiqlid設問: **ステップ3**



トリエ京王調布の一角をお借りし、お買い物などで立ち寄られたみなさんにその場で意見を書いていただく、まちなかワークショップを開催しました。特にお子さま連れの方が多く参加され、「共創のまちのビジョン」についてご意見をいただきました。

市民ワークショップ②

開催日:12月14日

参加者:8名

対応するLiqlid設問: **ステップ3**



「共創のまちのビジョン」の中間とりまとめにご意見をいただくワークショップを開催しました。幅広い世代の市民が、調布市の未来について意見を交わし、理想の姿を手触り感のあるものにする有意義な時間となりました。

電気通信大学でのワークショップ

開催日:1月7日

参加者:現地参加25名
ほかオンライン受講生

対応するLiqlid設問: **ステップ3**



電気通信大学の「ベンチャービジネス概論」講義に参加し、調布市が推進する「共創のまちづくり」について、学生の皆さんと共に考える貴重な時間を過ごしました。将来を担う学生ならではの、多角的なご意見をいただきました。

大切にすべき視点

ちようふLiqidやワーク
ショップで寄せられたご意見

ステップ

1

調布市の未来

ステップ

2

産学官民連携

ステップ

3

中間とりまとめ

安全・安心に暮らせるまちであることや、持続可能なまちづくりをしていくことが、子どもたちの未来を守ることにつながります。

1

子どもたちの
未来のために

市民の声

…ちようふLiqidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

子どもがたくさん住
んでいる街だったら、
活があり、魅力的だ
なと感じます。

匿名 5

市全体使える見守
りネットワークがあ
れば、安心して子
育てできると思
います。

匿名 2

子どもの声が楽し気に響くま
ち(子どもが元気！、騒音み
たいに思われないおもいやり、
子育てしたいと思えるまち、と
いう意味)

匿名 4

子どもがイキイ
キとして
いるまち

匿名 6

大人になって自分の
育ったまちをもっと
良くしたいと動ける
人になっていたら、素
敵だなと思います。

匿名 7

図書館や公園を学びと遊びの拠点に
できたらいいな

匿名 3

調布市

…現状の認識や期待など

基本計画 <重点プロジェクト>

■ 安全・安心に暮らせるまち

災害に強いまち、地域防犯力の高いまちを目指し、市民の暮らしに安心感をもたらすことのできる都市の基盤づくりを進めています。

基本計画 <重点プロジェクト>

■ 調布の宝である子どもたちを応援するまち

地域で安心して子どもを産み、育てられる環境や、子どもたちが安心して学び、成長できる環境づくりを進めています。

■ 中学生以上の若者ニーズ調査

子どもや若者が希望を持てる市となるために取り組むべきこと
「学習・学び直しができる環境・機会の充実」が過半数

学びたいときに学べる環境が整っていることは将来の希望につながる！

■ 市民意識調査 優先度ランキング (R6年)

第1位 防犯対策 第2位 地震対策 第3位 風水害対策

安全・安心に関する項目の優先度が高いことがわかります。

デジタル活用による取組事例

- 避難所開設状況・混雑状況の配信
- 調布市公式LINE(情報発信、道路等の不具合報告)
- 認知症徘徊高齢者探知システム

調布スマートシティ協議会構成団体 では、こんな取組を実施してきました

■ あんしんコール実証事業

特殊詐欺の疑いのある通話をAIが判断。家族の声で本人に危険を伝えるときに、離れて住む家族にも危険を通知！

■ eスポーツを起点としたインクルーシブ*な 交流・体験機会の創出事業

eスポーツを活用し、福祉施設、子ども関連施設、地域のコミュニティ施設など、日頃交流する機会のない施設間をつなぎ、新たな交流の機会をつくる！

■ グリーンインフラ*の活用

グリーンインフラの活用について考えるため、崖線樹林地などの人が入りにくい土地をドローンや計測機器を使って調査！

■ 【防災教育の日】での連携

タブレットと連動した「水害から命を守る」ワークショップ！
災害伝言ダイヤルや公衆電話の使い方をレクチャー！

大切にすべき視点

ちょうふLiqidやワーク
ショップで寄せられたご意見

ステップ
1

調布市の未来

ステップ
2

産学官民連携

ステップ
3

中間とりまとめ

人々や企業、さまざまな活動を行う団体に、魅力を感じて集まってきてもらえるようなまちであり続けるために、まちの魅力を高めるだけでなく、その魅力を発信していくことも重要です。

2

人が集まる
魅力的なまち

市民の声

ちょうふLiqidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

面白く暮らしを工夫することができる街であること

匿名 1

調布の魅力を発信し、行きたいと思えるコンテンツを増やしたい

匿名 7

散歩やピクニックが楽しめる場所になっていて欲しい。野菜や植物を育てることで緑のある街であってほしい

匿名 4

やったことのない新しい趣味などに挑戦できる

匿名 2

地元イベント情報を手に入れて気軽に参加できる

匿名 1

歩くだけで楽しむことができる通り、商店街

匿名 2

調布市

現状の認識や期待など

基本計画 <重点プロジェクト>

■ にぎわいと交流のある活気に満ちたまち

利便性と快適性を兼ね備え、地域資源や特性を活かした、にぎわいと交流のある都市空間づくりを進めています。

基本計画 <重点プロジェクト>

■ 人と自然がおりなすうまいあるまち

環境保全意識の高まりとともに、緑や水辺を守り、地域景観を活かしたまちづくりを進めています。

■ 中心市街地(調布・布田・国領駅周辺)が魅力的と感じている市民の割合

現状(R6年) 72.2% → 目標(R8年) 80.0%

目標達成に向け、年々増加傾向！

■ 市民意識調査 調布のまちの魅力や個性・特色(R6年)

第1位 都心への交通の便がよい 第2位 豊かな自然がある

第3位 日常の買い物が便利

生活のしやすさと自然環境の両立が、調布らしさとして評価！

デジタル活用による取組事例

- デジタルスタンプラリーイベント
- 「映画のまち調布」PR映像「ガチョシアター」

調布スマートシティ協議会構成団体では、こんな取組を実施してきました

■ お出かけ情報サービス

地域のイベントやお店の情報を一つのデジタルマップに集約！
電車・バスなどの公共交通やシェアサイクル*を使った各スポットまでの経路検索も可能！

■ イベントスタンプラリーやチケット(半券)優待サービスによる市内回遊の促進

同日に開催されるイベントをつなぐスタンプラリーや、スポーツ観戦チケットを使った優待サービスの実施などで、イベントを訪れた方にもっと調布を満喫してもらいたい！

■ グリーンインフラの活用【再掲】

グリーンインフラの活用について考えるため、崖線樹林地などの人が入りにくい土地をドローンや計測機器を使って調査！

大切にすべき視点

ちようふLiqidやワーク
ショップで寄せられたご意見

ステップ
1

調布市の未来

ステップ
2

産学官民連携

ステップ
3

中間とりまとめ

新たな技術を活かしながら、より利便性の高いまちを目指すことと、誰にとっても快適な暮らしを提供することを両立させていく必要があります。

3

利便性の高い、
快適な暮らし

市民の声

ちようふLiqidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

夏に水遊びのできる
広い公園や屋根
(日陰)のある遊び
場がもっとあった
らいいなあ
匿名 18

交通の便が良い
街が良いです
匿名 3

高齢者の生きが
いの場が欲しい
匿名 2

ショッピングも
季節の散策も
しやすい街に
匿名 3

家族で過ごす
場所がたくさん
あるまち
匿名 2

日々の暮らしで困った
ことを誰に聞けばよいか
すぐわかるまち
匿名 1

車いすでも走行
しやすい街
匿名 3

調布市

現状の認識や期待など

基本計画 <重点プロジェクト>

■ 誰もが自分らしく安心して住み続けられるまち

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる共生社会の
充実や、健康づくり、高齢者・障害者支援を進めています。

■ 住みよいまちと感じている市民の割合

現状(R6年) 94.4% → 目標(R8年) 95.0%

非常に高い水準で推移！

■ 普段利用している道路が通行しやすいと感じて いる市民の割合

現状(R6年) 65.1% → 目標(R8年) 70.0%

目標達成には、もう一歩！

■ 障害者の福祉に満足している市民の割合

現状(R6年) 70.5% → 目標(R8年) 75.5%

目標の75%に向けて、さらに心地よいサポートを届けます！

デジタル活用による取組事例

- 自動窓口受付システム
- 「自治体・医療機関等をつなぐ情報連携システム
(PMH:Public Medical Hub)」先行実施事業
- ちようふおやこ手帳アプリを通じた伴走型相談支援
- 高齢者人感センサー安否通報システム
- 北部地域デマンド型交通*

調布スマートシティ協議会構成団体 では、こんな取組を実施してきました

■ がん相談サポート事業

市民からがんに関わる悩み・困りごとを聞き、その悩み
やニーズに合わせて、行政や民間のサービスや情報を
案内する相談窓口を開設！

■ ごみナビの開発

ごみの分別に迷うものをAIが画像判別し、適切な分別
方法を案内！

■ お出かけ情報サービス【再掲】

地域のイベントやお店の情報を一つのデジタルマップに
集約！
電車・バスなどの公共交通やシェアサイクルを使った
各スポットまでの経路検索も可能！

大切にすべき視点

ちょうふLiqidやワーク
ショップで寄せられたご意見

ステップ
1 調布市の未来

ステップ
2 産学官民連携

ステップ
3 中間とりまとめ

まちの中で、幅広い体験・経験ができること、人々や団体それぞれの持つ強みや良さを活かせる場があることは、みんなで創り上げていく
まちの「チカラ」になります。

4

多様な人材が
生きる機会

市民の声

ちょうふLiqidに寄せられたご意見

2025/11/10時点

市民同士の交流が
盛んなまちになっ
てほしい！

匿名 2

多世代が一緒に
交流する場

匿名 7

企業、大学がもっと地域や子
どもたちにオープンになっ
て、さまざまなことを学習、
体験できる機会が提供され
ているといい

匿名 4

より良くするための意見を出し、それが自分たちの活動
や子どもたちに良い形でか
えってきたら、嬉しいと感じ
て関わってくれる人は少なく
ないと思う

匿名 3

大学や企業が参
加・運営できるイ
ベントづくり

匿名 1

調布市

現状の認識や期待など

基本計画 <重点プロジェクト>

■ にぎわいと交流のある活気に満ちたまち

利便性と快適性を兼ね備え、地域資源や特性を活かした、
にぎわいと交流のある都市空間づくりを進めています。

基本計画 <重点プロジェクト>

■ 調布の宝である子どもたちを応援するまち

地域で安心して子どもを産み、育てられる環境や、子ども
たちが安心して学び、成長できる環境づくりを進めていま
す。

■【市民意識調査】市政・まちづくりに参加したいと 思う市民の割合 57.2% (R6年時点)

みんながまちづくりの主役！と思えるように。

■【市民意識調査】「まちに親しみや愛着を感じて いる」市民の割合 78.3% (R6年時点)

年々増加しているけれど、もう一步！(H30調査:53.5%)！

デジタル活用による取組事例

- ちょうふLiqid
- チャット相談支援事業(子ども・若者と家族を対象)

調布スマートシティ協議会構成団体 では、こんな取組を実施してきました

■ CDC(調布・デジタル・長寿)事業

デジタルが苦手な高齢者の不安を解消！
オンラインも活用した運動や食事等に関する健康教室
を通じて「つながり」をつくることで、健康寿命を延ばす
ことを目指す！

■ 超小型バイオガスプラントを活用した 地域資源循環実証モデル事業

給食残菜から液体肥料とエネルギーを生成するプロセスを
見学し、資源循環を実感しながら学ぶ！

■ ローカル5G*実証ハウス栽培トマトの活用

先端技術を活用して栽培したトマトを学校給食で地産
地消！

■ シニア向けスマホ講習会

デジタルに馴染みのない高齢者にもスマートフォンの
利用が広がることで、情報へのアクセスがスムーズに！

寄せられたご意見

ちようふLiquidやワーク
ショップで寄せられたご意見

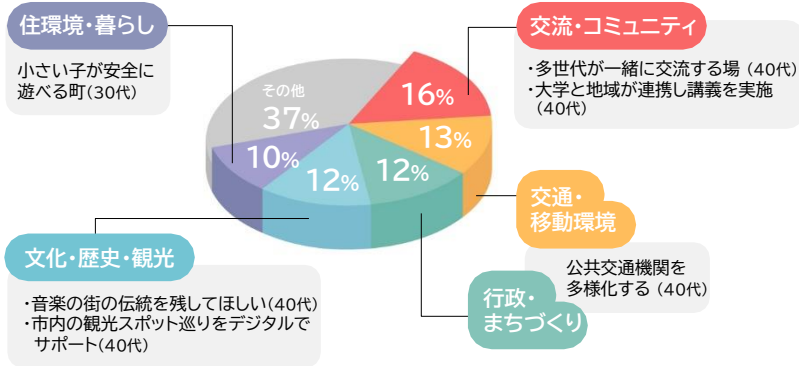
ステップ
1 調布市の未来

ステップ
2 産学官民連携

ステップ
3 中間とりまとめ

Q1 より心地よく、魅力的と感じられる、次の世代につないでいきたいまちにするために、必要なこと、あったらいいなと思うことは何ですか？

市民のみなさんから寄せられた意見をカテゴリ別に整理(ちようふLiquid・ワークショップより)
市民のみなさんの共感(いいね！の数)が多かった意見を掲載しています。



産・学・官の立場から
寄せられた主な意見

(調布市各部署・調布スマート
シティ協議会ヒアリングより)



市保有データを企業や住民が活用できる、オープンデータの整備をさらに推進すべき



交流・対話の場を創出し、まちづくりへの企業参画メリットを周知することが必要



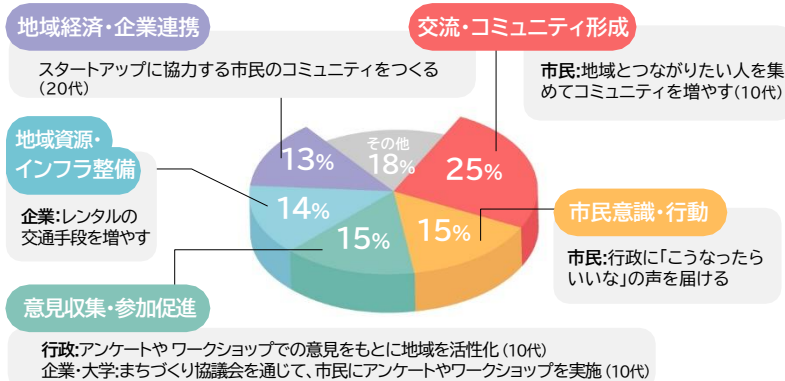
検討過程や将来像を誰でもアクセスできるように開示すべき



幅広い世代がまちづくりに参画できる環境を整備すべき

Q2 理想の調布市を実現するために、企業・大学・行政・市民には、何ができると思いますか？

市民のみなさんから寄せられた意見をカテゴリ別に整理(ちようふLiquid・ワークショップより)
市民のみなさんの共感(いいね！の数)が多かった意見を掲載しています。



産・学・官の立場から
寄せられた主な意見

(調布市各部署・調布スマート
シティ協議会ヒアリングより)



行政は市民ニーズを把握して課題解決の仕組みをつくり、企業・大学は課題発見から策実施まで行政と協働して進める



意見収集手法を多様化し、市民の多層的なニーズを把握する



企業・大学の資源から若者の体験機会を創出し、次世代育成と地域貢献を両立する



産学官民が対等な立場で協働し、専門性や強みを活かして、成果を共有する

寄せられたご意見

ちょうふliquidやワーク
ショップで寄せられたご意見

ステップ
1 調布市の未来

ステップ
2 産学官民連携

ステップ
3 中間とりまとめ

Q1 大切にすべき4つの視点のうち、重要だと思う視点は何か？その視点を選んだ理由、または、あなたがその視点から調布市で『ステキだな』『こうなったら嬉しいな』と思う具体的なシーンや場所、サービスを教えてください

イベント・情報発信 (24件)

- イベントの広報を強化するべきだ
- 多世代が参加できるイベントを開催する

市民参加・行政運営 (12件)

- 多様な人材の参加が、公共の取組の幅を広げる
- 市民意見を政策決定に反映する

その他 15件

公園・遊び場 (40件)

- 子どもが安心して外で遊べる環境を整えるべきだ
- ボール遊びができる公園を充実させてほしい

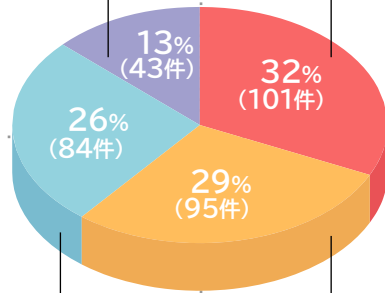
子育て (13件)

- 次世代の調布を担う子ども達の暮らしを最優先に考えた場所づくりが不可欠だ

その他 31件

多様な人材が
活躍する機会

子どもたちの
未来のために



人が集まる
魅力的なまち

利便性の高い、
快適な暮らし

イベント・情報発信 (24件)

- 駅前イベントを継続してほしい
- 地域の賑わいを継続的に高めるべきだ

施設・公共空間 (23件)

- 人が集まる空間がまちの活気を生む
- 映画のまちを自称しているのもっと映画館がほしい

その他 54件

交通・移動 (50件)

- ベビーカーや子連れも安全に歩けるように歩道を整備してほしい
- バスやシェアサイクルを活用し、交通利便性を高める

施設・公共空間 (18件)

- 住みやすいまちづくりが他の視点を進めるうえで根本的に大切だ

その他 27件

※グラフのパーセンテージ数値は小数点以下を調整しているため、表示上の数値と一致しない場合があります。

Q2 「中間とりまとめ」をご覧になって気になったこと・思ったこと(例:共感した点、新しく気づいた点、もっと知りたい点など)を自由に教えてください！

意見・要望

■ 市民参加・意見収集

- 多世代が参加できる仕組みを整え、デジタルと紙媒体を併用して意見を集める
- ワークショップや取組を広く周知し、市民の意見反映の仕組みを透明化する
- 計画段階から将来の調布を担う小・中学生に意見を求めたらよいと思う

■ 情報発信

- SNS等を含む多様な媒体で、取組・進捗・産学官民連携の内容をわかりやすく発信する
- 情報を一元的に確認できる仕組みを整え、情報発信・周知を進めてほしい

■ 地域資源活用・魅力向上

- 深大寺、布多天神社、東京スタジアム等の地域資源の発信を強化する
- 市民と大学生・外国人・多世代がコミュニケーションを取れる機会・場があると良い
- 先進的な取組を継続的・持続可能な形で推進することがまちの魅力につながり、訪れる人が増えると思う

■ 共創

- 地元企業の地域貢献や技術実証の場づくりを促進し、民間企業と市民の連携機会を増やす

■ 公共空間・施設

- ベンチなど交流が生まれる空間の整備を進める
- グリーンホール建て替え等を含め、施設の活用と改善を検討する

課題感

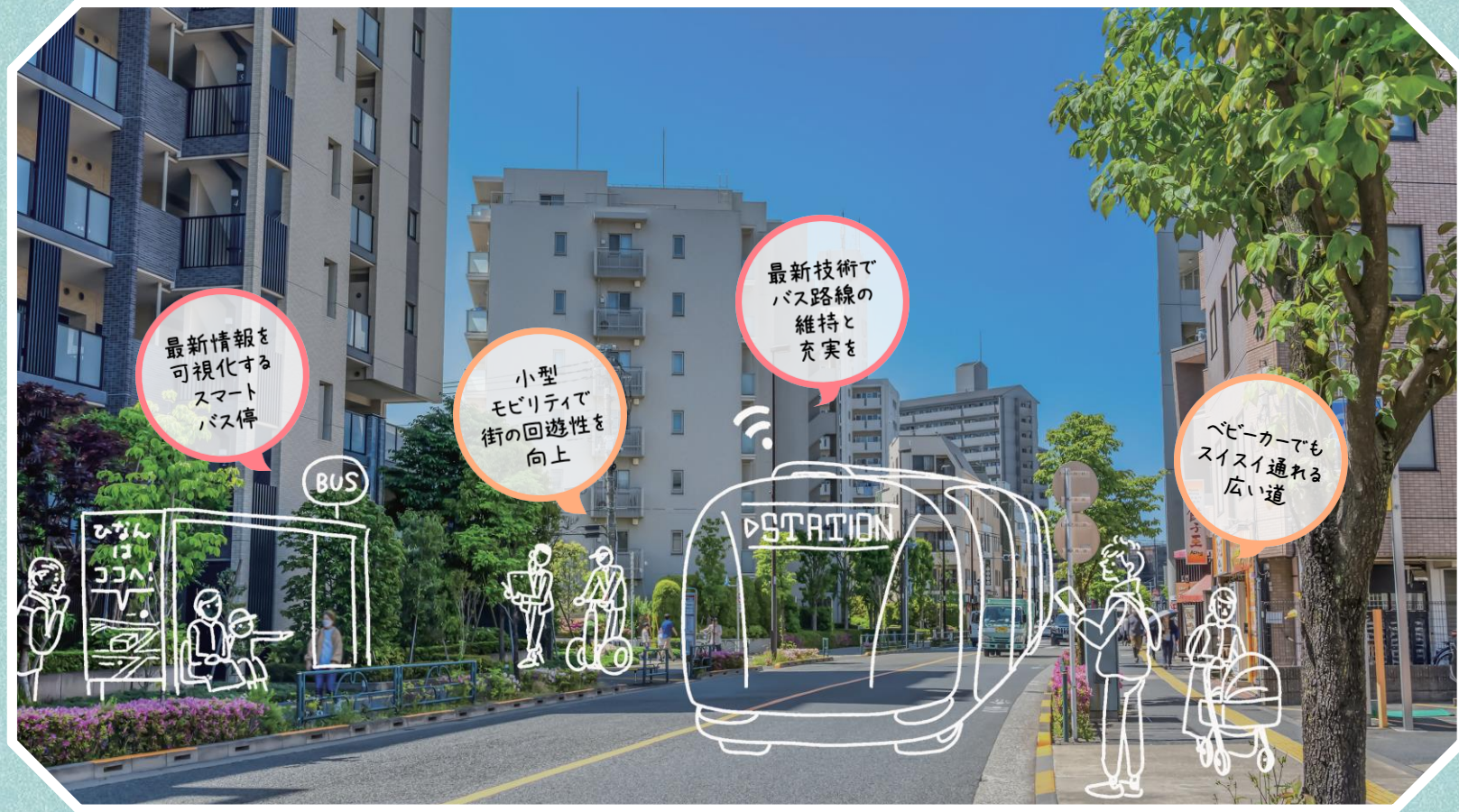
- 市民からすると、産・学・官の動きが見えない、わかりづらい
- 「共創」とはデジタルなのか？もっとアナログな人のつながりも必要だと考える
- 市民意見はどれくらい反映されるのか？
支持の少ない意見は切り捨てられてしまうのか？
- ビジョン策定するにあたり、これまでどんな取組や課題があったのかわからない

その他感想

- 調布のまちづくりに期待しています！！
- 災害時も考慮して「駅に行けばなんとかなる」というコンセプトのもと、実証実験をしたらどうか
- 大切にすべき4つの視点をWell-Beingにつなげてほしい
- 調布市ならではの取組にしてほしいです！



※ちょうふLiqidに寄せられた意見のうち、AIが回答傾向が強い意見を抽出したものをイメージイラストにしました。イメージしやすいよう、描いたイラストを調布のまちの風景に重ねて作成していますが、これらの風景が示す場所・施設と個別の意見との関係性を意図したものではありません。また、これらの内容について、本ビジョンに基づき実現に向けた施策・取組を進めることを意図したものではありません。



※ちょうふLiqidに寄せられた意見のうち、AIが回答傾向が強い意見を抽出したものをイメージイラストにしました。イメージしやすいよう、描いたイラストを調布のまちの風景に重ねて作成していますが、これらの風景が示す場所・施設と個別の意見との関係性を意図したものではありません。また、これらの内容について、本ビジョンに基づき実現に向けた施策・取組を進めることを意図したものではありません。



※ちようふLiqidに寄せられた意見のうち、AIが回答傾向が強い意見を抽出したものをイメージイラストにしました。イメージしやすいよう、描いたイラストを調布のまちの風景に重ねて作成していますが、これらの風景が示す場所・施設と個別の意見との関係性を意図したものではありません。また、これらの内容について、本ビジョンに基づき実現に向けた施策・取組を進めることを意図したものではありません。

登録番号 (刊行物番号)
2026-053

調布市みらい共創ビジョン

発行日 令和8年5月
発 行 調布市
編 集 行政経営部企画経営課共創推進担当
〒182-8511 調布市小島町2-35-1
Tel 042-481-7368、7369